

主催 倭文会 箏・三絃リサイタル 第十八回

後援 大阪府・大阪市・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会
大阪市助成公演

平成二十二年

とき 六月五日(土) 午後五時三十分開場
六時五分開演

ところ 国立文楽劇場小ホール

大阪市中心区日本橋1丁目12-10 電話(06)621212531
(地下鉄千日前線・堺筋線・近鉄線「日本橋駅」下車⑦号出口より徒歩一分)

「上方の風雅」(三)

この音楽(地歌・箏曲)は十六世紀半ごろ上方(大阪・京都)で生まれた
優美な叙情歌。十八世紀に円熟盛大、十九世紀半ごろ完結している。
江戸時代、日本列島は緑に覆われ、機械文明が開かれていない町中は
静寂感が漂い、閑静な佇まいであったと思われる。
豊かな天然自然の変化する神秘的な美しさと、
移ろう風情に心の機微を表現している。
海外の影響を受けていない日本独自の上方の感性が織りなした音楽である。

- ◆主演 齊藤春子(箏・三絃)
- ◆助演 倉橋容堂(尺八)・守山借子(箏・三絃)・倉橋文子(箏・三絃)・こま麻子(三絃)
- ◆お話 丹波 元(作家)

◆演目

富士太鼓

作曲 藤尾句当

(十八世紀半ごろ活躍)

楽人太鼓の名手の芸争いで起きた悲劇を物語にした謡曲「富士太鼓」から歌詞を引いている
海外ではグルックのころ

扇の曲

作曲 八橋檢枝

(六一四〜一六八五)

和歌六首を組み合わせた箏うた
海外ではバロック前期、リュリ、カリシミのころ

翁の曲

作曲 峰崎句当

(十八世紀半〜十九世紀初頭大阪島之内で活躍)

謡曲の祝儀もの「翁」から歌詞を引いている
海外ではベートーベンのころ

三津山

作曲 光崎檢枝

(一八五三)

作歌 後楽園四明居

大和三山の妻争いの古事を一男二女の説話にした謡曲「三山」から歌詞を引いている
海外ではシヨパン、メンデルスゾーンのころ

入場料:前売 3,000円(当日 3,500円)※全自由席

チケット取扱いお問合せ:国立文楽劇場・倭文会(TEL・FAX 06-6458-7030) 4月1日発売

※郵便振替の場合:口座番号00900-7-179711/加入者名:倭文会(しずのかい) 締切:5月31日(月)必着(確認次第お届けします)